

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4790300042 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人と勝福祉会 | | |
| 事業所名 | 地域支援ホーム津堅いこいの家 | | |
| 所在地 | うるま市勝連津堅1144番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 26 年 10 月 7 日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年 1月 9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hyokekka.nsf/a0open?OpenAgent&JNO=4790300042&SYC=0001096&OC=01 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント | | |
| 所在地 | 沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F | | |
| 訪問調査日 | 平成26年 11月21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

津堅島は人口500名高齢化率が36%の島である。最後まで島で暮らすことを希望している高齢者は9割を超えるとの報告もある。地域支援ホーム津堅いこいの家は平成21年に開設され今年で6年目を迎えました。開設当初より、利用者の変動がなく、ご家族や地域の方々と共に支えあいながら利用者の皆様に寄り添い、なじみの関係を築きながら支援しています。施設の玄関に入ると、島独特の言葉が飛び交い絶えず明るい笑い声が聞かれ、利用者の皆様の笑顔がとても素敵である。地域の方々気軽に立ち寄り、季節の野菜や海の幸を届けてくれます。地域行事にも参加し、なじみの場所やなじみの方々との交流も行われ地域の一人としての関係作りにも努めています。毎月行われる地域交流会は地域の方々とのふれあいの機会でもあり楽しみにされている行事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島内全域が馴染みの人や場で、事業所、家族、地域で共に支えあいながら島で暮らし続けられるように支援している。いこいの家の入居者だけでなく、島内の高齢者情報も把握し、行政、高齢者相談センターと協力して取り組んでいる。小中学生に認知症を理解してもらうための啓蒙活動や月1回のランチバイキングでの地域の方との交流会を行っている。健康面でも事業所向かいが診療所で医師との連携が構築されている。馴染みの島の香りや風景を大切にし、入居者の声を傾聴しながら支援している。支援する上でも、排泄等の失敗や拒否、不穏等の原因を探り、見極める姿勢が職員のケアの質の向上に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年12月22日

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念について、職員が地域密着型の意義や役割を理解し、利用者が生まれ育った島でその人らしく生活ができるよう事業所独自の理念を掲げ、場面場面に理念に添った支援が出来るように努めている。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念で、日々の支援場面で振り返る等、職員は共有している。入居者の声を傾聴し、家族、地域と一緒に入居者だけでなく、島内の高齢者が地域で安心して生活ができるように取り組んでいる。島の香り、空気、馴染みの顔、言葉、その人らしさを大切にしながら実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方々との関係が途切れないよう島のボランティアの受け入れや区主催の諸行事への参加、地域交流を通して子供から大人までいろいろな世代の方々との交流が来ている。季節の野菜や海産物のおすそ分け等も日常的に見られ気軽に立ち寄れる場である。 | 地域住民との交流の場は多く、区主催の行事や学校の入学式や卒業式への参加、また運動会プログラムに入居者種目が組み込む等世代間の交流を行っている。毎月地域の方を招待してのランチバイキングや認知症講座の取り組み、台風時には高齢者センターと協力して自宅訪問し安否確認を行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 生まれた島でその人らしく暮らし続けるためには、職員を始め地域の方々認知症を理解することは重要である。事業所では、ケアの専門性や支援方法を職員間で話しあい、地域やご家族の方へは事例や聞き取りをしながら接し方等をアドバイスしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2か月毎に行なわれ、15名のメンバーによる話し合いが行われている。事業所での取り組み状況や課題等も報告しサービス向上につなげている。 | 会議は年6回定期的に開催し、地域の方や知見者も多く参加している。入居者は最後まで会議に参加する方との管理者の思いで参加は無く、課題として捉えている。会議では事業所の現状やヒヤリハット、事故報告もされている。委員から島内での出来事等や診療所医師よりアドバイスも受けながら意見交換している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | サービスに関して市の窓口担当に確認や現状を伝え、困難な事例に対しても解決や改善が出来るよう日頃から連携をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。広報誌等の発送等も行い利用者の表情や活動の様子も伝える取り組みをしている。 | 市担当者とは電話や運営推進会議等で連携し、プライバシーに配慮して会議後に市担当者話し合い、包括に繋げ改善した事例もある。半年毎の開催の行政連絡会に参加している。事業所の建物が市指定管理で、継続に向けて事業所の現状や取り組みを市に出向き管理者は、プレゼンテーションしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束により、利用者の身体的、精神的な苦痛について話し合い、身体的拘束をしないケアの実践や廃止に向け取り組み中である。ベッドの高さを低く設定して転落の予防をし、行動の抑制に繋がる言葉使いにも配慮している。 | 職員は日々言葉使いに留意し、指定基準においての11の禁止行為を理解して支援している。拘束についての事業所内での勉強会や法人での身体拘束廃止委員会の勉強会に参加している。リスク等についても家族に説明して理解を得ている。玄関やテラス出入口も施錠せず開放している。 | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者と職員は利用者への身体的、精神的な虐待がないか注意を払い見逃さないよう防止に努めている。送迎や訪問時、入浴時も含め状況に変化があれば管理者へ報告し対応している。高齢者虐待防止関連法について勉強会を行い理解に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設内勉強会にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明し、理解に努めている。対応が必要と思われる利用者のご家族に対しては情報を提供し利用者の支援に活用できるよう支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、締結、解約に関してはご家族へ十分な説明を行っている。随時、ご家族が必要な場面に対しては説明や理解に努めるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族へ毎月いこいの家の広報誌を配布し、利用者の皆様の生活状況や近況報告を行っている。運営推進会議時、要望の把握や個別の連絡ノートや電話にて聞き取りを行い運営に反映している。 | 入居者は日々の生活の中で意見等を聞く機会とし、「肉をいっぱい食べたい」「民謡を聞きたい」等の要望、又、家族に毎朝電話をかけ入居者の不安軽減に繋げている。家族会を設立して交流会をしている。家族より島外から集まる旧盆の翌日に開催の要望があり実施している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 週初めに行なわれる管理者会議で事業所での取り組み状況の報告や、検討事項、課題等の報告を行い解決や改善に向けての取り組みを行っている。法人全体での会議では職員の意見交換があり運営に反映している。(職員採用、備品の購入、業務改善、行事、研修等) | 職員は、月1回の会議や2か月毎の法人全体会議で意見を聞く機会を設けている。業務改善や本島から通勤している職員の台風時の待機、休憩、泊まりの場所を確保してほしいとの要望を受け、法人で島内の空家を借り入れ待遇改善に繋げている。認知症実践者研修参加に積極的に取り組みケアの向上に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | その場、その時規則、規定の見直しがあり職員の働きやすい環境作りが行われている。モチベーションを高めて各自が向上心を持って働く工夫に向けて職場環境、整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の採用時、新人研修やトレーニングを行っている。各、職種で法人内外の研修の機会があり職員の資質の向上に向けての取り組みを行っている。 | | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的にグループホーム連絡会や、研修に参加しネットワーク作りを行っている。同業者が事例を通して学ぶ機会があり、毎月参加しサービスの向上や支援体制の充実を図ることにに向けて取り組み中です。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス利用開始前に、ご家族や本人の施設見学や体験する機会を設けている。利用者のニーズや思いに向き合い、応えられるような支援方法を職員間で話しあい、安心を確保するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入時は本人やご家族の意向を確認し困っていることや、不安なことに耳を傾け支援している。面会時や電話等で連携を取りながら関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメントシートを基に、本人やご家族の意見を聴取し、意向や課題を見極め他のサービス利用も含め柔軟な対応に取り組んでいる。(福祉用具、受診等) | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者個々の、こだわりや楽しみ、思いを共感し得意なものでお互いを支え合う関係づくりに努めている。島独特の生活習慣があり、耳を傾けながらそういう場面作りが出来るよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族へ施設行事への参加や準備の協力依頼を行い、ご家族と共に利用者を支援する関係づくりに努めている。又、受診や年中行事の外出などもご家族と連携をとりながら本人を支えていく関係づくりを築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 定期的に地域交流会がありなじみの人との関わりが出来ている。島の行事(浜下り、ハーリー、ウズデーク、運動会、敬老会)への参加にて馴染の人との交流や場所との関係が途切れないよう支援している。 | 島内全域が馴染みの人や場で、島の行事や学校の行事等に参加したり、馴染みの島の香りや空気、島の風景をドライブ等で鑑賞している。管理者と定期的に郵便局に出かけ預金の引き出す入居者、暑中見舞い、年賀状を出す入居者等、馴染みの人や場との関係が継続できるよう取り組んでいる。 | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 集団の中で孤立しないようレク活動を通しての関わりや、食事中は職員も会話に加わり楽しく和やかな雰囲気作りを行っている。利用者同士の関係についても職員間で情報を連携し、円滑になるように配慮している。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても、これまで培ってきた関係を大切にフォローを行っている。施設行事や慰問がある時も気軽に声掛けにて参加されている。台風などの災害後も訪問し経過を見守っている。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、職員はその人との会話や表情にて把握し、どのように暮らしたいかを理解する。本人の視点に立ち意見を出し合い、取り組みをしていく。 | 殆どの入居者が言葉で表出することができる。アセスメントや家族からの情報を得て把握や入居者の思いや意向を傾聴することを心がけ、日々の生活場面で聞き把握に努めている。発語での表出が困難な場合は、入居者と信頼関係が構築された職員が対応している。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりのバックグラウンドや個性や価値観を把握することは本人を支援していく中で重要であり、本人との会話やご家族から聴取しケアに活かしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者個々の生活リズムを理解し、その人にあった1日の過ごし方を把握する。心身の状態に合わせた食事の時間や起床等も職員間で情報を連携し支援している。 | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は利用者の視点に立ち、地域でその人らしく暮らし続けるために必要な支援を具体的に盛り込みご家族や、本人、関係者の意向や意見要望等を反映しながら計画、作成するように努めている。 | 介護計画は入居者、家族の意向を反映された計画となっている。1年毎のアセスメントや毎月のモニタリング、定期や状態変化に応じた見直しがされている。排泄や入浴、食事、健康管理と個々の支援の実施記録は確認できた。入居者、家族の意向がケアには反映されているが、実施記録の確認はできなかった。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 看護と介護の両面の個別の記録をし、検討する課題についてはケア検討会議にて見直しを行い、職員間で情報を共有しながらの実践や介護計画の見直しを行っている。 | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人ひとりを支えていく中でその時のニーズに応じて多様な支援を行い、利用者やご家族の日々の変化に応じて必要なサービスを臨機応変に提供している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域での生活を継続していく為に、地域のボランティア(ゆんたくボランティア、民謡ボランティア、交流会時の接待ボランティア)の受け入れを行い、地域の資源を活かしながら楽しく豊かな暮らしが出来るように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の皆様が島にある診療所を利用され、お互い情報を提供しながら適切な受診が出来るように支援している。状態の変化時にはご家族やDrに連絡を行い共にアドバイスを得ながら支援している。 | 入居者全員が島の診療所を定期受診している。診療所が向いにあり、状態変化時(食欲がない、体重の変化、薬の副作用等)には直接、医師や看護師に伝えアドバイスを得たり、他の医療機関への紹介や専門医への受診に繋げている。日頃から診療所との関係が構築されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職は入浴時やその人の関わりの中で捉えた情報を看護と連携を持ち必要な対応ができるように努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 医療の必要性が発生した時、医療機関と連携をとり適切な処置が行われるよう調整している。医療との関係作りは担当者会議や運営推進会議等にDr、や看護師も参加され情報交換や相談を行いながら関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の看取りの指針も整備し、医療と連携をとりながら支援を行う体制作りをしている。利用者の状況の変化に応じてご家族への繰り返し確認や書面を通しての同意も行うように努めている。 | 重度化や終末期に向けた方針や支援体制が整備され、状態変化時に家族と話し合いが行われている。家族の意向を踏まえた看取りの事例があり、家族には面会を増やしてもらうなど取り組んだ。職員には勉強会や書き込みノートに記録し、その都度医師や看護師からアドバイスを得るなどで不安軽減に繋げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設内勉強会や地域で行われる消防職員による心肺蘇生法や応急手当の講習会へ職員も参加している。必要に応じマニュアルの読み合わせやAEDの取り扱いも診療所の協力を得ながら行い、実践できるようにしている。 | | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害を想定した避難訓練を年2回実施している。災害に関するビデオにて事前にその恐ろしさや、事例を通して学んでいる。身近に出来ることを実践し、スイッチを小まめに抜く、元栓の点検をしている。消防団や診療所とも協力体制をしている。 | 島には消防署がなく地域で消防団、女性消防団を結成している。消防団や診療所職員の協力を得て、夜間想定と津波想定での避難訓練を実施し、毎月来島の市の消防署員に相談やアドバイスを求めている。独自のマニュアルの作成や台風対策では自家発電機の点検、毎月のごまめな点検で防災意識を高めている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 援助が必要な時も、その人を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。一人ひとりのプライバシーの確保については職員間で度々、周知の徹底に努めている。 | 一人ひとりの支援に当たって丁寧な言葉かけや傾聴することを心がけている。「自分がされたくないことはしない」「自分に置き換えて考える」「訴えを知る手がかりを探す」など、プライバシーを損ねないような取組み、尊厳ある態度で接している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中では、個々の状態に合わせ、思いや要望を自分で決め、利用者の意志を尊重し自己決定を促すように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れは基本的にありますが、一人ひとりの生活リズムがありその日の体調や本人の気持ちを尊重し、個々のペースに合わせて見守りしながら支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に散髪を行い整容の乱れや失禁などで汚れた場合、さりげなく整え本人のプライドを保つよう支援している。全居室に鏡が整備されており身だしなみのチェックが出来るよう整備されている。行事やお出かけ時はお化粧をする。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は利用者にとって最大の楽しみであり、個別の嗜好調査を行い栄養士に報告しながら献立の工夫を行っている。又、毎月行われるランチバイキングはテーマがあり、島の人参、もずく、芋、アーサ等を使った献立は楽しみである。 | 法人の管理栄養士が作成した献立で、事業所で調理している。入居者一人ひとりの出来ることで、ランチマットの準備やおしぼりの配布、食器の片づけ等行っている。毎月、テーマを決めたランチバイキング(スタミナ料理、トロピカル料理等)や日曜日のおやつ作り(ヒラヤーチー、ちんびん、たこ焼き、大学イモ等)があり入居者が楽しみにしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個別の食事形態の把握と嫌いなものに対しては1日の量が確保できるよう代替え食も行っている。個別の摂取量を記録で管理しており、水分の摂取量が少ない時はゼリーや水分を多く含んだ果物等も取り入れ飲める工夫をしている。 | | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの必要性を職員が理解し、毎食後、口腔の清潔が保てるよう声掛けや見守りをしながら支援している。歯科医院による個別のチェックや相談、アドバイスを得ながらオーラルケアを行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握するため個別のチェック表がある。失禁がある場合は排泄時間帯の見直しや原因等も話しあい失禁がないよう配慮している。ほぼ全員のトイレ介助を行い自立に向けて支援を行っている。 | 排泄チェック表を活用して、日中はトイレで排泄できるよう誘導している。失敗や拒否が続く場合は話し合いを行い、時間帯の見直しや原因を探り、入居者への配慮や工夫をしている。入居者によっては状態に応じた個別の記録ノートを作成して、体位変換等も細かな記録をとり不快感や苦痛を感じないように支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の解消に向けて、繊維類を含んだ食材を使った献立が栄養管理上配慮されている。便秘予防として排泄の報告が行われ、適度な運動や水分摂取に心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの希望や時間帯も考慮しながら行っている。プライバシー保持のためにシャワーカーテンを使用し、不安や羞恥心がないよう入浴支援に努めている。 | 入浴は個室で同性介助を基本とし、夏場は毎日、冬場は隔日のシャワー浴をしている。入居者一人ひとりの希望に合わせて時間帯や曜日等柔軟に対応支援している。浴室の換気も良く、脱衣室は夏場は扇風機、冬場はヒーターを利用して環境に配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりのその日の心身状況や、生活習慣にてゆったりと休憩したり、音や光、室温などにも配慮しながら安心して気持ちよく休めるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬について変更があれば、気づきノートや申し送りにて報告を行い、症状の変化についても情報を共有し医師に連絡し連携を取っている。個別のフェイスシートがあり、服用している薬について把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の得意なことや特技を配慮した役割を行い、一人ひとりの力が発揮できる支援を行っている。行事の時の挨拶担当やおやつ作りにてその人の得意なものを作り自信が持てるよう支援している。 | | |

沖縄県(地域支援ホーム津堅いこいの家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの意向を把握し、週末はご家族と過ごしたり、島の行事や郵便局、買い物支援等を行っている。 | 散歩や事業所裏にある畑に野菜収穫に出かけたり、人参畑や浜辺へのドライブも楽しんでいる。地域行事への参加も多く、小中学生の運動会や入園、入学式、祝賀会、ハーリー、敬老会へと出かけ、ハーリーでは応援団として場を盛り上げている。週末毎に帰宅する入居者の買い物支援や郵便局へ出かけたりと希望に沿って個別支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理が自立している方は、本人が管理し一人ひとりの希望に応じ日用品などの買い物ができる支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者からの要望時、電話の取次ぎや暑中見舞い等の代行も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 多目的ホールから見るテラスは観葉植物が配置され、癒しの場となっている。施設全体は清潔感を保ち、白い壁が温かく感じられるよう布のタペストリーで装飾を行っている。居室は落ち着いて過ごせるよう家具やカーテンの色などを配慮し、居心地良く過ごせる工夫をしている。 | ホールが建物中央に位置し、共用空間、テラスが囲うように配置されている。ホールにはテーブル、椅子、ソファ等が置かれ入居者は思い思いの場所で過ごされている。壁に共同の作品や入居者の活動写真等が飾られテラスにはボランティア提供の観葉植物が並べられ、お茶や外気浴が楽しめるようになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間のフロアではベージュのソファやマッサージ機を配置しており、マッサージしながらリラックスできるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドやタンスは備え付けで、ご家族の写真やラジオ、クッション、時計はこれまでに在宅で使っていたなじみの物を利用して頂き、居心地の良い環境作りを支援している。 | 居室はベット、タンス、洗面台が備えつけられ、トイレ付きの居室が2か所ある。入居者は寝具類や写真、時計等馴染みのものを持ち込まれている。毎朝、環境整備を行い、寝具にはボランティアが制作した布カバーが掛けられ清潔面にも配慮している。衣類管理チェック表を作り、本人や家族に確認しながら支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全室バリアフリーにて居室からトイレ、浴室まで動線が短い。歩行訓練も出来、機能訓練に役立っている。多目的ホールから全室見渡すことが出来、安心、安全である。 | | |